

○オオキツネノカミソリの分布（小松崎一雄） Kazuo KOMATSUZAKI: The distribution of *Lycoris kiushiana* Makino

オオキツネノカミソリが本州（武藏）に産することに就ては既に記した通りであるが、その分布に関して新しい資料を得たのでここに報告したい。桜井元氏に勧められて科学博物館に奥山春季氏を訪い、同氏の御厚意によつて所蔵のオオキツネノカミソリの標品其他を見せて戴いた。同館には Type locality の多良山産の標品の他、清水大典氏の日向飫肥の標品その着色原図並びに観察記録があつた、また同秩中にあつた昭和6年8月中村瀧三氏採集の川上村（紀伊）産標品は、キツネノカミソリの名鑑が未だ訂正されずについていたが、まぎれもないオオキツネノカミソリであつた、これらの標品並びに観察記録及び外山三郎氏からの私信に基づいて現在までに明らかにされた本種の分布は次の如くである。九州では多良岳（肥前）雲仙岳（肥前）英彦山（豊前）小石原（筑前）古処山（筑前）飫肥（日向）椎葉（日向）本州では川上村妹尾（紀伊）上案下（武藏）景信山（武藏）。以上のうち英彦山、小石原、古処山の産地は外山氏の通知によるもの、椎葉は科学博物館所蔵の清水氏の記録によるもので何れも標品や図を見ていない。清水氏の図は鱗茎のついた花と花茎の図で、鱗茎は黒褐色のコートにつつまれている。苞は淡紅色を帯び、花は朱紅色、花蓋片の上端部辺縁は不規則に縞れを現わし、雄蕊は超出して黄薬。四花をつけやや上向し、柄は割合に長い。私は上案下産のものを天然色スライドを作つたが、これと対照してみると、明らかに同じ型で、苞の色、花の色、それらの大きさ、形、雄蕊の突出具合、黄薬。其の他の点に於てよく符合する。但し清水氏が言われる花蓋片先端部の殊態は病的或いは畸形のように思われる所以今は触れずにおきたい。中村瀧三氏採集の川上村の標品も上記2産地のものと同型である。然るに景信山や多良岳の標品は一まわり大形なもので、花茎の高さ 45 cm 基部の径 1 cm にも及び、花期はやや早く（7月）、花色は薄く（椎葉産は黄色といふ）、一花序中の花数はやや多い（4-7、前者では 2-4 が普通）。かく差異がみられるのは生育場所の環境に大きく支配されるらしく、兩型ともに見られる景信山では、大形のものは比較的高所の樹蔭にあり、小形のものはやや下つた沢（上案下）などに見られる。終りに臨み、種々御便宜を与えられた科学博物館の奥山春季氏他各位の御厚志を深謝する。（東京都葛飾区本田渋江町 535）

〔補〕 オオキツネノカミソリは四国にも産し、東大理学部臘葉室には 1888 年に採集された土佐、黒森及び伊予、石槌山産の標本がある。なお九州産について芳賀惣博士が調べられた所によると染色体はキツネノカミソリと同じである。（編集委員）

○ユキバヒゴタイの第二の産地（農国秀夫） Hideo TOYOKUNI: The second locality of *Saussurea chionophylla* Takeda.

北海道大学農学部の五十嵐恒夫氏は 1953 年の夏、北海道北目高の山々を歩かれ、そ